原作ブレイク？そんなの関係ねぇ「第三章、世界をケーキみたいに創りまSHOW」

マンゴープリン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原作ブレイク？そんなの関係ねぇ「第三章、世界をケーキみたいに創りまＳＨＯＷ」

【Ｎコード】

Ｎ３４０７Ｌ

【作者名】

マンゴープリン

【あらすじ】

この小説は、原作ブレイク？そんなの関係ねぇ「第一章」の主人公、龍夜が、東方の世界で暴れる話です。

少しは繋がっていますが「第一章」のプロローグと主人公設定と世界観設定を見ていただいたら、「第三章」からでも分かると思います。

プロローグ（前書き）

この話は時系列的に、原作ブレイク？そんなの関係ねぇ「第二章」のあとです。

プロローグ

俺は今審判の間の長い廊下を歩いている。

いきなり頼みたいことがあるからって、言われたから帰ってきたけど。俺なんかしたかな？

長い廊下の突き当たりに大きな扉があり、そのまま扉を開け中に入る。

「やっさーん帰ってきたでー。ほんで頼みたいことってなんや？」

しかし、やっさんは今日もでかいな～。

「いや、それがな…」

言いにくいことなのか珍しく言いどもっていた。

何や？またあいつらでも暴れたんかな？

「おぬし、天使と戦ったじゃろ」

突然天使の話に変わった。確かに少し前に戦ったがそれがどうしたんやろう？

「確かに戦ったけど？それがどうしたん？」

「その時、全力を出したじゃろ？」

あー、あのときやね。
天使だけやったら大丈夫だったんだが、女の子の体の中にはいっとったから体を傷つけずに倒す方法がそれしかなかったからな。

「もしかして何か不味かったか？」

「おぬしが全力をだすだけじゃったらよかったんだが。天使も宇宙単位で力を使ったからな……」

天体制御（アストロインハンド）のことか？

「もしかして新たな宇宙でも出来たってか？ははは。んな訳ないわな」

俺が冗談でそんなことを言う。

「宇宙は出来てないがそれに近いな」

「……は？マジかよ」

冗談で言ったつもりが当たったとか。ないわ～～。

「まさかその世界の面倒をみろとかゆーんちゃうやろな」

「そのまさかだ」

「おいおい……。これで創造神の掛け持ち７０個めやで」

「わしは３６８個だぞ」

「知るか！」

マジでめんどくさいわ～。

「はぁ……まぁいいや……過ぎたことを悔やんでも仕方ないしな。
その世界のこと教えてくれ」

今さら後悔しても遅いのでわりきることにした。

「初めは世界に任せて見守るつもりだったのだが、人間達の技術が
発展しすぎて地上の人間は全滅してしまったのだ」

やっさんは何事もなかったかのように淡々と現状を説明する。

「“地上の”人間はってことはどっかに生きてる人間が居るってこ
とか？」

「そうだ。生き残った人間達は月に移住し、生き延びている」

「月ねー。凄いところに逃げたもんやで。
俺は地上だけちゃんと整えたったらええねんな？」

俺が確認をとるように聞くとやっさんは頷く。

俺が行こうとするとやっさんが声をかけてきた。

「向こうの奴等とは話をつけとらんから、おぬしが話をつけてくれ」

「マジかよ…めんどくせーなー。まー頑張ってきますわ」

振り返らず背中越しに手を振りながら部屋をでる。

「まーいっちょ頑張りますか」

俺は地面に大きな穴をあけ、その中に落ちてゆく。

プロローグ（後書き）

今回はつなぎだけなので短いです。

次回からちゃんと話に入っていきます。

感想や評価、誤字脱字などありましたら、お願いします。

龍夜、落っこちる（前書き）

最近また遊戯王のオリカつくった。

オリカっていってもニコニコな動画のリリなの遊戯王ＭＡＤのやつだけど。

東方のオリカ作ろっかな？

龍夜、落っこちる

俺は今、空から落ちてる。

全てが空色なわけではなく、頭上に茶色い色が見える。

頭上――――そう、逆さまになって物凄い勢いで地面に突っ込んでいく。

んー、まずいな。このままじゃ潰れたトマトみたいになるよ。カゴメスープだよ。

……いや、カゴメスープがトマトスープなのかは知らないけど。

地上（した）に着いてからスムーズに動けるように、高度が高いうちに地理を調べる。

人間が住んでいた場所に移転したから、真下の山に囲まれている所が人間の住んでいたところだろう。

狭い。

右側は薄暗く霧の様なモノが立ち込めていて、斜め上には暗い川の様な何かがある。斜め下には、ココからじゃ良く見えない薄い何かがある。

左側には、大岩の様なものが鎮座している。周りは雲に覆われてい

て全然見えない。

相当でかいぞこれ。全体像が全く見えねぇ。《アカシックレコード》で調べたら、大体世界の七割がこの石に占領されているみたい。そりゃ狭いわ。

あの岩のところどころから神力のような力が溢れ出ている。多分あそこに神たちが住み着いてるんやろ。
さらに神が長いこと居座ったことにより岩に神力が宿って要石になって、神すら動かされへん様になったんだろう。

ホンマ面倒なことしてくれるわ。こんな狭い星に、冥界、天界、人間界全て創るからからこんなことになんねん。
まずは無難な闇魔のとこ行って話付けよか。

体を反転させ、かなり近くなっている地上に着地する態勢をつくる。

ズドォーーーン！！！！！

すごい爆音と土煙を上げ、着地する。

「けほっ！けほっけほっ！！土煙スゲェ！！着地じゃなくて着弾やでこれ」

腕を振い、煙をはらす。

「確か右手側に三途の川らしきものが見えたからそこかな？」

三途の川に向かって歩き出す。

「やっとついたぜ……」

俺の目の前には底の見えない暗い川が流れている。

良く見ると川に半透明の魚が泳いでいる。めっちゃ変わった形をしていて魚かどうかすら怪しい。

どんな姿かというと、深海魚をスーパーサイヤ人４５ぐらいにしてメタモルフォーゼさせたような姿。

はっきり言おう。きもい。

確か三途の川って浮かばないんだよな？

「ってことで実験してみましょう！！用意するものは一つだけ、己の体力！それのみ！！では、行ってみましょう！！！」

少し川から離れ……

「ウオリャアアアァァーーーーーーーーーーーー！！！！！」

全力ダッシュ！！

右足が沈む前に左足を出す！！

左足が沈む前に右足を出す！！

それを光速を超える神速で繰り返す！！！

「ガボガボガボ……」

失敗！！

うん、俺がアホだった。三途の川をダッシュで渡ろうとすること事態が間違いだった。

三途の川を渡るのは背泳ぎだったよ。忘れてた。

「ってことでレッツ渡来！！　あ、間違えた。レッツトライ！！！」

俺は全力でクロールをした。

背泳ぎじゃないのかよって突っ込みは受け付けないぜ☆

やっと彼岸に着いた。

簡単そうに言ってるが結構大変なんだぜ？
突然深海魚もどきに襲われるわ。突然波が荒れるわ。どっかのバカ死神が流したのか、渡し舟にぶつかるわ。散々だぜ。
そいで閻魔たちはどこにいるんだ？

立ち上がり、周りを見渡す。
すると、奥の方に大きな建物を発見する。
待ってろよーー閻魔ども！！俺から逃げられると思うなよーー！！！
すでに目的が変わっている龍夜だった。

建物には大きな荘厳さを携えた門があった。名前などがあればきっと『裁きの門』とでも言われていただろう。
「なんだこの門？俺を通さんつもりか、オォ？！さっさと開かんかい！！」

しかし龍夜には効かなかった。あまつさえ門に喧嘩を売る始末。

「ま、こんな事で開いたらびっくりするわ」

カラカラと笑っていると、突然扉が開く。

驚いたが慌てず、バックステップで後ろに下がり構える。

中から出てきたのは、きっちりとしたスーツを着た、きっちり髪型を整えてるメガネをかけた美人だった。

絶対秘書だ。もう、秘書ですよオーラがビシビシ伝わってくる。間違えたりしたらメガネをクイッ、っとして鞭とかでビシィッ、って叩いてくるよ絶対。

などと秘書に対して歪んだ知識を披露しているうちに、いつの間にか目の前に秘書さんがいた。

ヤられるぅ！！！！！

ＳＩＤＥ　秘書さん

十王様の内、閻魔様に仕えている秘書死神です。

今日は、十王様方のお客人である方がこられると言うことで、一番力を持っておられる閻魔様に仕えている私がお迎え役を命じられました。

十王様全員で先に客室で迎える準備をなさっていることから、かなりの神格が高い方が来られる事が容易に想像できます。

今まで、閻魔様に仕えていることもありそれなりに、神格の高い方にお会いすることは多かったのですが、今回のようなことは今まで無かったこともあり、かなり緊張しています。

いつもはなんとも思わない門へと続く廊下がココまで長く感じたのは初めてココに就職しにきて以来です、などと緊張のあまり変なことを考えてしまいます。

門の前にたどり着くと外から誰かと喧嘩しているような声が聞えてくる。

もしかしたら誰かがお客様に粗相をしているのかもしれない。

そんなことを思うと余計に緊張してお客様に迷惑をかけてしまいそうになる。

そうならないように、緊張でがちがちになった体をほぐすため、深呼吸をして、門に手をかける。

門を開け外に出ると、7～8歳位の女の子がこちらに向かって構えている。

はじめ、何か粗相をしてしまったのかと思いましたがそうではなく、突然開いた門に驚いたようです。

少し安心して、小声で何か話しているお客様に近づき挨拶をしようと思っていると、突然顔をあげ、びっくりしたような顔をされ、怯えた様にプルプルとふるえだしました。

私の方がびっくりしました。私もガタガタ震えたいです。でもお客様をお待たせするのはもっといけないのでがまんし、お客様を案内します。

「初めまして、今回道案内をさせていただく秘書死神のヤヨイです」

「は、初めまして！我は龍夜と申す者でござる！！」

できるだけ粗相の無いように気をつけながらお辞儀をすると、お客様も慌ててお辞儀をかえしてくれます。

ござる？少し方便訛り（？）が強い方なんでしょうか？

その後は滞りなく挨拶が終わり、十王様が待つ、客室に向かいます。

廊下を渡っている時に、ほんの少お客様のお力が視えてしまいました。

普通の死神には相手の力を視る力は無いのですが、秘書や裁判補佐をする死神はその力を持っている事が必須条件なので、秘書である私は視ることが出来るのです。

視えたのはお客様が抑えているお力の洩れだったのですが、その‘洩れ’だけで十王様全てを合わせたお力を超えていたのです。

‘洩れ’だけでこれだけのお力を持っていると言うことは、本気を出したらどの位になるのか、想像すら出来ません。

なぜあれだけ十王様が慌てていたか、理解してしまいました。

これだけのお力を感じた後では、閻魔なんてちっぽけですよ！嘘です、ごめんなさい。閻魔様怒らないで！！ガタガタブルブルガタガタブルブル……

すいません。あまりのお力に混乱してしまいました。

お客様は、長い廊下が珍しいのかきょろきょろしている姿を見ると、歳相応の女の子のようです。

客室の前まできましたので扉をノックし、お客様のために扉を開けて差し上げます。

お客様は、部屋に入るときにお辞儀をしている私の頭を撫でて「ありがとう」とおっしゃってくださいました。

少し背伸びして撫でてくれる姿には少し萌えてしまいました。

ＳＩＤＥ　ＯＵＴ

ＳＩＤＥ　龍夜

いつの間にか前に立っていたＴＨＥ秘書さんがお辞儀をしながら挨拶をしてきたので慌てて挨拶をする。

そうじゃないと、鞭でビシッビシッ！ってされるから。……たぶん。

「初めまして、今回道案内をさせていただく秘書死神のヤヨイです」

「は、初めまして！我は龍夜と申す者でござる！！」

テンパリすぎてＮＩ☆Ｎ☆ＪＡみたいになったけどどうしよ……。でももう取り返しつかないよね。言い直したらきっと、

秘書さん「良い声で啼きなさい！！」

ビシビシ！！

俺「あ…あう……う…うぁぁ……」

ビシビシ

秘書さん「オーホッホッホッホッ！！！」

って感じになる。そんな予感がめちゃくちゃする。……たぶん。

そんなことを考えていると、話が終わったのか、門の中にすたすたと入っていくＨＩ☆ＳＹＯさん。

その後ろを急いでついていく。

待ってくれよ〜〜。

秘書さんの後を追っかけながら、廊下をみる。

上位世界にある閻魔のところに行くための廊下はたまに蝋燭――なぜか消えない――があるぐらいであとはなんにもないのに、ココには肖像画の様なモノが飾られている。

そのほかに、高そうな壷や何のためにあるのかわからないものまで色々と観察する。

廊下を歩いているとふと、前から視線を感じて秘書さんの方を向くと、秘書さんが少し青い顔になり少しふらふらになっている。

出来るだけ力を抑えていたけどもしかしたら俺の力に当てられたのかもしれない。

すいません秘書さん！！腹掻っ捌いてお詫びします！！！！でもお腹切ると痛いのでやめます！！！

中から強い力を感じる部屋の前に着くと秘書さんが扉を開けてくれる。

ありがとう秘書さん！気分が悪いのにそこまでしてくれて！！

部屋の中に入るとき秘書さんの頭に手を置き、治療をかける。その時少し背伸びしなくちゃいけなかったのはみんなには秘密だぜ！！

龍夜、落っこちる（後書き）

東方の方が先に書けたので投稿しました。

暫くは神様や天地創造についての話。

感謝コーナーは、第一章の感想は第一章で。第二章の感想は第二章でしようと思います。

第三章は第三章で。

これからの事なんですが、Ｒ１５をしていますが、作者はあまりエッチシーンを書かないです。

最近の小説では愛す＝エッチみたいな感じのが多いのですが、作者はあまりそう言うのが好きではありません。

体だけ求めているみたいで。

でもエッチ（Ｓ〇Ｘ）はあまりないけど少しエッチ（ＳＥ〇未満）はあるかも。

そこでアンケートなんですが。

1．少しエッチ（○EX未満）が

A．少しだけある

B．多くある

2．エッチ（S○X）が

C．少しだけある

D．多くある

3．それ以外

E．エッチなど要らん！ハートで勝負じゃ！！

F．エッチバラダイスじゃ～～～！！！

どれですが？

他にも、東方キャラクターで攻略してほしいキャラクターなどがありましたらどんどんいってきて下さい。

オリキャラも募集しています。

一応、毘沙門天と天魔、天魔の部下（鞍馬天狗）と萃香と勇義以外の四天王の一人だけ決まっています。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3407l/

原作ブレイク？そんなの関係ねぇ「第三章、世界をケーキみたいに創りまSHO

2010年10月9日05時38分発行